

2024年3月期 決算概要

2024年5月14日



パンチ工業株式会社

(証券コード:6165 東証スタンダード)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 2024年3月期 決算概要

2024年3月期 決算ハイライト

日本・中国の減収幅が大きく、原材料費・エネルギーコストの高止まりもあり減益

売上	連結	連結売上高は、前期比89.6%、44億円減の383億円
	日本	前期比88.2%の124億円 食品関連は好調に推移したが、自動車関連の下落幅が大きく影響
	中国	前期比87.2%の204億円 自動車関連の下落幅が大きく影響
	東南アジア	前期比96.7%の19億円 ベトナム、インドネシア、フィリピンが堅調だが、シンガポール不調
	欧米他	前期比108.7%の35億円 展示会出展による知名度向上及び新規取引が進み好調を維持
利益	営業利益は、前期比50.9%の1,240百万円 経常利益は、前期比59.4%の1,421百万円 親会社株主に帰属する当期純損失は、▲577百万円 （前期の親会社株主に帰属する当期期純利益は、1,390百万円）	
ネット資金	経営合理化支出を設備投資絞り込み等でカバーし期首から95百万円増加	

■ 2024年3月期 決算ハイライト

- 3Qから状況は大きく変化せず、日本・中国の減収幅が大きく、原材料費・エネルギーコストの高止まりもあり、減益

損益計算書サマリー

(単位:百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	前期差	前期比
売上高	42,799	38,344	▲ 4,455	89.6%
営業利益	5.7% 2,436	3.2% 1,240	▲ 1,196	50.9%
経常利益	5.6% 2,394	3.7% 1,421	▲ 972	59.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (純損失)	3.2% 1,390	- ▲ 577	▲ 1,967	-

【実績為替レート】 1人民元=19.80円/1USD=140.54円



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

2

■ 決算数値の概要

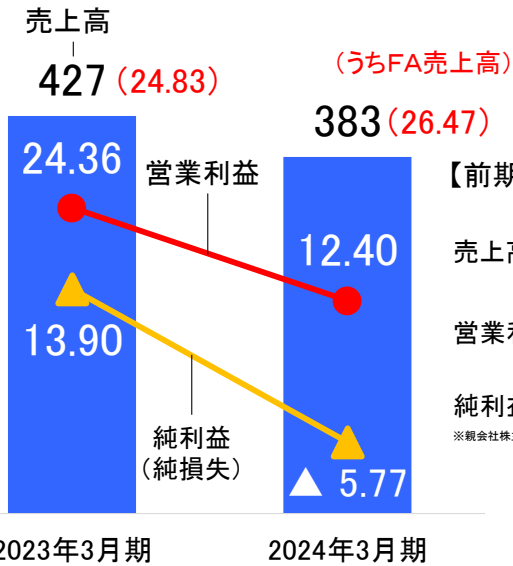
■ 売上高は383億44百万円で前期比89.6%、44億55百万円の減収

■ 営業利益は12億40百万円、為替差益の計上等により経常利益は14億21百万

■ 2023年9月に実施した経営合理化に伴う特別加算退職金と再就職支援に係る一時的な特別損失等の計上により、親会社株主に帰属する当期純損失は5億77百万円

売上高と利益

(単位: 億円)



【前期比較】

売上高	44	億	55	百万円	減収
営業利益	11	億	96	百万円	減益
純利益	19	億	67	百万円	減益

※親会社株主に帰属する当期純利益



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

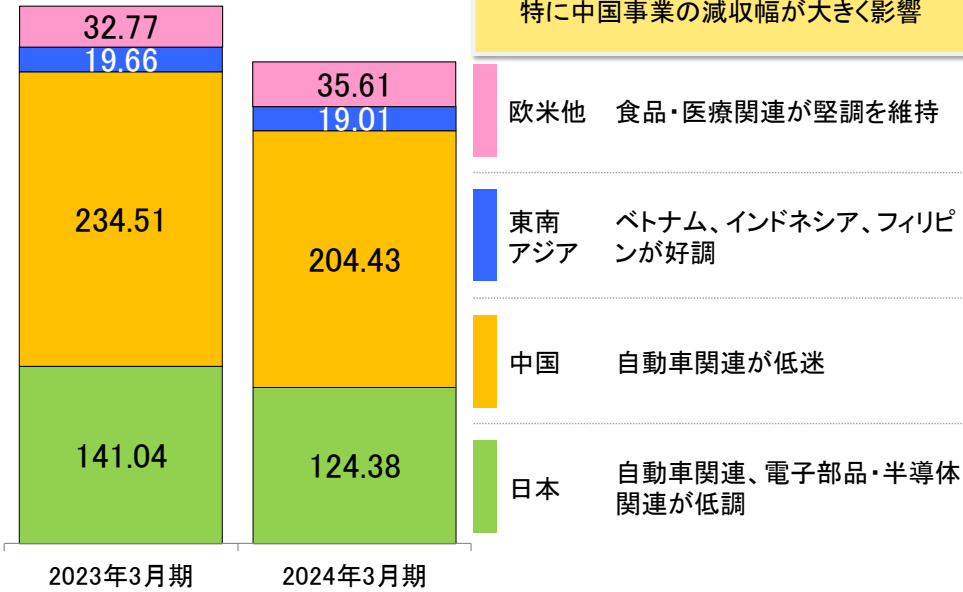
All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

3

- 2023年3月期と2024年3月期の売上高・利益比較(通期)
- FA売上は増加したものの、前期の数値と比較して、減収減益
- 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

地域別売上高

(単位: 億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

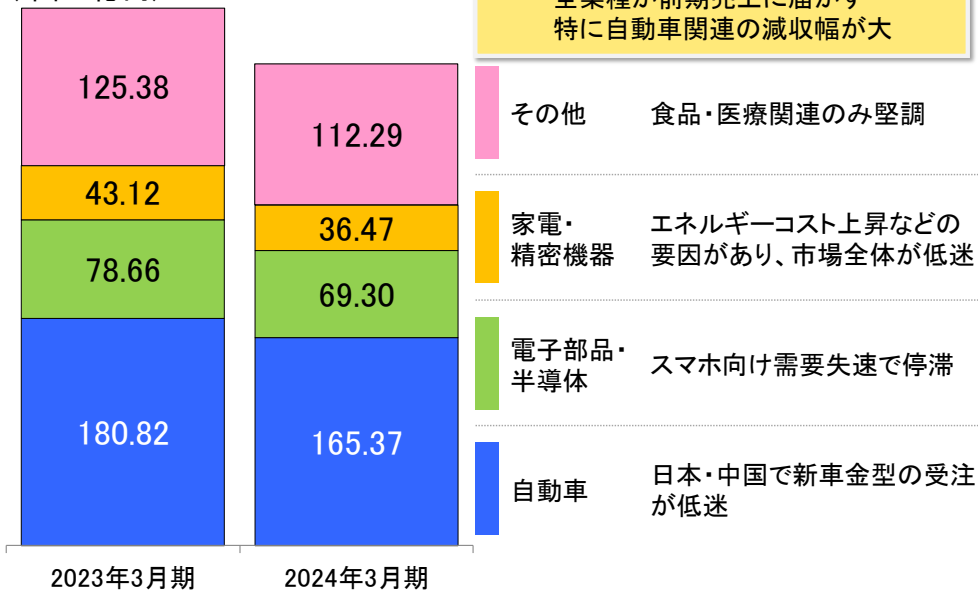
All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

4

- 2023年3月期と2024年3月期の地域別の売上高比較(通期)
- 中国事業の減収幅が大きく、連結売上に影響
- 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

業種別売上高

(単位: 億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

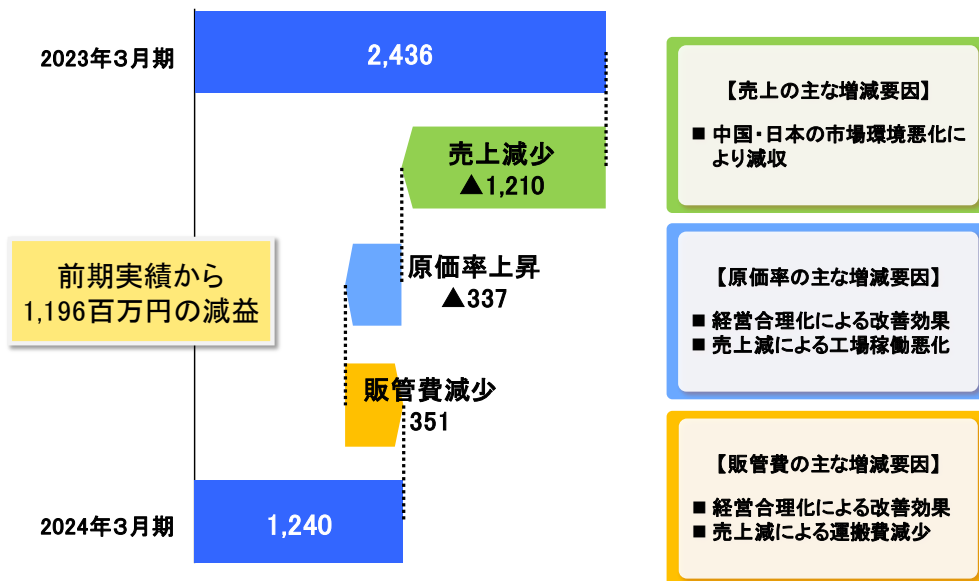
All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

5

- 2023年3月期と2024年3月期の業種別の売上高比較(通期)
- 自動車関連は、日本・中国ともに新車金型の受注が低迷
- 電子部品・半導体関連は日本・中国ともにスマホ向け需要失速により停滞
- 家電・精密機器関連はエネルギーコスト上昇などの懸念があり、市場全体が低迷
- その他は食品・医療関連が堅調
- 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

営業利益増減

(単位: 百万円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

6

■ 2023年3月期と2024年3月期の営業利益の増減分析

- 前期の営業利益実績24億36百万円に対して、売上減による利益減少が12億10百万円

経営合理化による原価削減の効果はあったものの、売上減少に伴う稼働悪化及びエネルギーコスト上昇等の影響により、原価率が上昇し3億37百万円の営業利益減少

販管費は経営合理化による効果と売上減少に伴う運搬費減少により、3億51百万円の減少(利益増加)

- 結果、2024年3月期の営業利益は、前期から11億96百万円の減益となり、12億40百万円を計上

貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2023年3月期末	2024年3月期末	比較増減
総資産	30,455	29,649	▲ 806
総負債	11,403	10,899	▲ 504
うち有利子負債	2,997	3,721	724
純資産	19,052	18,750	▲ 301
ネット資金	2,215	2,310	95
自己資本比率	62.4%	63.1%	0.7pt
自己資本利益率(ROE)	7.9%	-	-
投下資本利益率(ROIC)	8.1%	3.9%	▲ 4.2pt
設備投資額(無形固定資産含む)	1,352	915	▲ 436
減価償却費(無形固定資産含む)	1,130	1,166	35



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

7

■ 貸借対照表サマリー

■ 総資産は、固定資産の減少等により、8億6百万円の減少

■ 総負債は、退職給付に係る負債の減少等により、5億4百万円の減少

■ 純資産は、親会社株主に帰属する当期純損失の計上に伴う利益剰余金の減少等により、3億1百万円の減少

■ 結果、自己資本比率は前期末から0.7ポイント上昇し、63.1%
投下資本利益率(ROIC)が3.9%と、前期を下回り、目標としている10%に未達

■ 設備投資額は、前期から4億36百万円減少の9億15百万円

キャッシュ・フローサマリー

(単位:百万円)

	2023年3月期	2024年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,560	1,276
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,546	▲ 680
フリーキャッシュ・フロー	1,013	596
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 756	▲ 2
現金及び現金同等物の増減額(換算差額含む)	543	791
現金及び現金同等物の期末残高	5,212	6,003

■ キャッシュフローサマリー

- 営業CFは12億76百万円の収入
退職給付に係る負債の減少等により、前期より12億84百万円の減少
- 投資CFは6億80百万円の支出
前期より8億66百万円の減少
- フリーキャッシュフローは5億96百万円のプラス

2024年3月期～2025年3月期

2023-2024年度 中期経営計画

「バリュークリエーション2024 Revival」 及び2025年3月期 業績予想

◆ 本資料内では、バリュークリエーション(VALUE CREATION)を「VC(ブイシー)」と称しています



パンチ工業株式会社

(証券コード:6165)

PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 「バリュークリエーション2024 Revival」及び2025年3月期 業績予想

✓ 以下、バリュークリエーション(VALUE CREATION)を「VC(ブイシー)」と呼称

■ 2023年7月、中期経営計画「VC2024」をブラッシュアップし、10月には新たに「バリュークリエーション2024 Revival」の経営数値目標を公表

■ 「VC2024 Revival」の中で、国内の大規模な組織再編と人員削減、また連結子会社の清算を行う経営合理化を断行し、「国内事業の再整備」を実行

■ 「VC2024 Revival」では、「付加価値の高い特注品ビジネスにより特化し、持続的な利益成長を目指す」ことを基本戦略とし、事業構造の改革に取り組み中

■ 「VC2024 Revival」に取り組みだした足下の半年間の状況と最終年度となる2025年3月期の経営数値目標等を説明

「VC2024 Revival」の重点経営課題

付加価値の高い特注品ビジネスにより特化し、持続的な利益成長を目指す

株式上場

VC15

VC2020

VC2024 Revival

- 国内事業の再整備
- 海外事業での成長

- 販売5極体制の確立
- お客様サービスの向上
- 高収益事業の推進とR&D強化
- 働き方改革

- グローバル化
- 新市場の開拓
- 高収益事業モデルへの転換

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

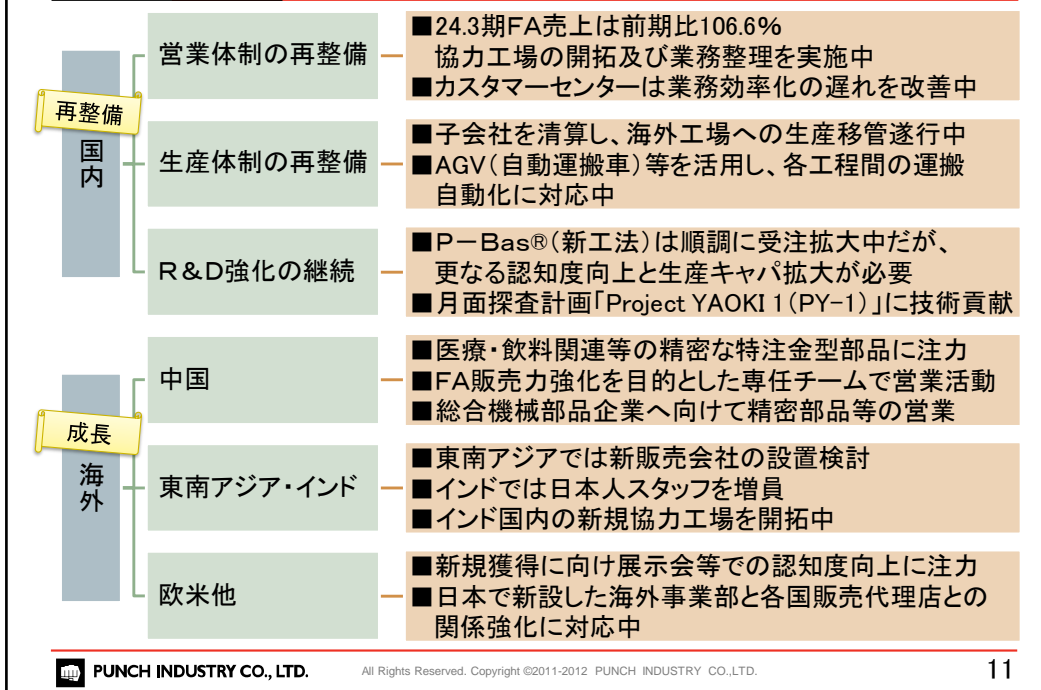
10

■ 「VC2024 Revival」の重点施策は、下記の2本柱

- ① 国内事業の再整備
- ② 海外事業での成長

■ 経営合理化による「国内事業の再整備」を最優先の課題として取組み中

「VC2024 Revival」の重点施策



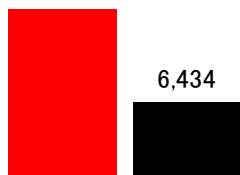
■ 「VC2024 Revival」の重点施策の状況

- 国内営業体制整備としては、FA売上の増加はポジティブな結果であり、協力工場の開拓及び業務効率化に継続着手
- カスタマーセンターの設立による業務効率化は、足下ではカスタマーセンターへの人員集約による効果が狙い通りに出ておらず、テコ入れ策が必要と認識
- 国内生産体制整備としては、清算した子会社や国内工場での生産品を海外工場への移管を進めており、やや遅れが出ている製品群もあるが、概ね想定通りに進捗中
- R&D強化では、当社が参画するダイモン社の月面探査計画「Project YAOKI 1(PY-1)」が、月着陸船「Nova-C」と月面探査車であるYAOKIの統合テストに成功
- YAOKIの設計開発に際し、当社では、3Dスキャナによる3D形状測定技術を活用し、YAOKI本体のフライトモデル及びYAOKI輸送用ケースの最適な隙間設定に貢献しており、当社の技術が宇宙にも展開される予定
- 海外事業の成長戦略は、中国、インド、欧米でのさらなる成長戦略に取り組み中

日本事業での経営合理化後の数値効果(上期・下期の比較)

2023年9月末、希望退職者の募集・連結子会社の解散を含めた経営合理化を実施

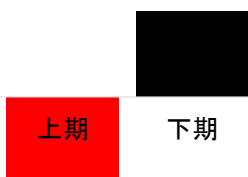
24.3期の売上高
6,723



上期 下期

24.3期の営業利益

110



上期 下期

▲ 110

- 売上高は▲289百万円
 - 売上構成比の高い自動車関連の受注低迷が継続
 - 人員減による営業及び製造の一時的な混迷

- 営業利益は+220百万円
 - 経営合理化による人件費の減少
 - 価格改定による利益の改善
 - 売上減による販管費の減少

- 「VC2024 Revival」では、「付加価値の高い特注品ビジネスにより特化し、持続的な利益成長を目指す」ことを方針として、最重点施策である「日本事業の再整備」を行うことで、早急な事業体制の再構築と、業績の立て直しを図る

- 経営合理化前後となる日本事業の上期と下期の売上高及び営業利益を比較
- 昨年9月末、希望退職者の募集・連結子会社の解散を含めた経営合理化を実施
- 上期は経営合理化前、下期は経営合理化後の数値となり、2024年3月期は下期に経営合理化の効果が集中
- 売上高は、自動車関連の受注低迷が継続したことや、人員減により営業及び製造の一時的な混迷が発生したこともあり、約3億円の減収
- 営業利益は、経営合理化による人件費の減少や売上減による販管費の減少などもあり、約2億円の増益効果
- 「VC2024 Revival」の最重点施策である「日本事業の再整備」を行うことで、早急な事業体制の再構築と、業績の立て直しを図る
- 当期2025年3月期は通期で経営合理化の効果が出るが、前期と比較した場合には上期分のみが上積み効果

2025年3月期 通期連結業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2024年3月期 (実績)		2025年3月期 連結累計期間		
			業績予想	前期差	前期比
売上高		38,344	38,500	155	100.4%
営業利益	3.2%	1,240	5.6% 2,150	909	173.3%
経常利益	3.7%	1,421	5.5% 2,100	678	147.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益(▲は純損失)	-	▲ 577	3.1% 1,200	1,777	-
自己資本利益率 (ROE)		-	6.3%	-	-
投下資本利益率 (ROIC)		3.9%	6.7%	2.8pt	-
2025年3月期 配当予想	19.61円(予定) = 中間 9円80銭 + 期末 9円81円				

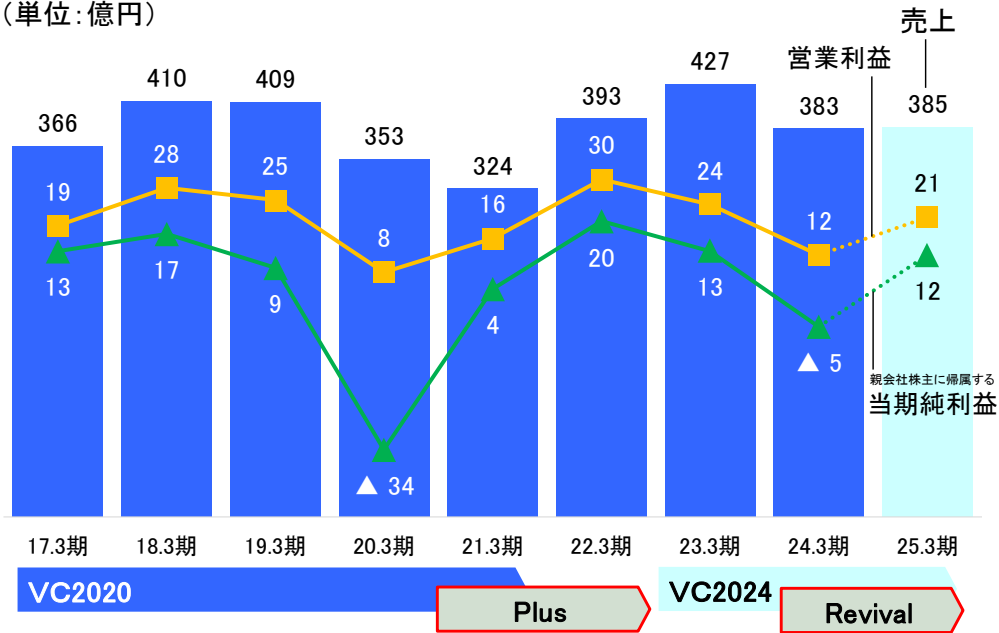
【想定為替レート】 1人民元=19円50銭/1USドル=142円00銭

【設備投資計画】 設備投資額:15億円 減価償却費:11億円

- 「VC2024 Revival」最終年度2025年3月期の通期連結業績及び配当の予想
- 2023年10月27日に公表した数値から、親会社株主に帰属する当期純利益のみ当初予想8億円から4億円の増益となる、12億円へ変更
- 前連結会計年度(2024年3月期)において、日本事業における減損損失が予想を下回ったことや税効果の影響等により、親会社株主に帰属する当期純利益が大幅に改善したことによる修正
- 増収増益予想の内容
 - 売上高は前期比0.4%増となる385億円
 - 営業利益は前期比73.3%増となる21億50百万円、経常利益は21億円
 - 親会社株主に帰属する当期純利益は前期から約17億円の増益となる12億円
- 配当予想は、当社の配当方針「連結配当性向30%以上、かつ株主資本配当率(DOE)3%以上」に則り、年間配当予想は前期比21銭増となる、1株当たり19円61銭となる見込み
- DOE計算方法の修正内容の説明を17ページに記載
- 想定為替レートは、1人民元=19円50銭、1USドル=142円
今期の設備投資計画は約15億円、減価償却費は11億円を見込む

「VC2024 Revival」の経営数値目標

(単位: 億円)



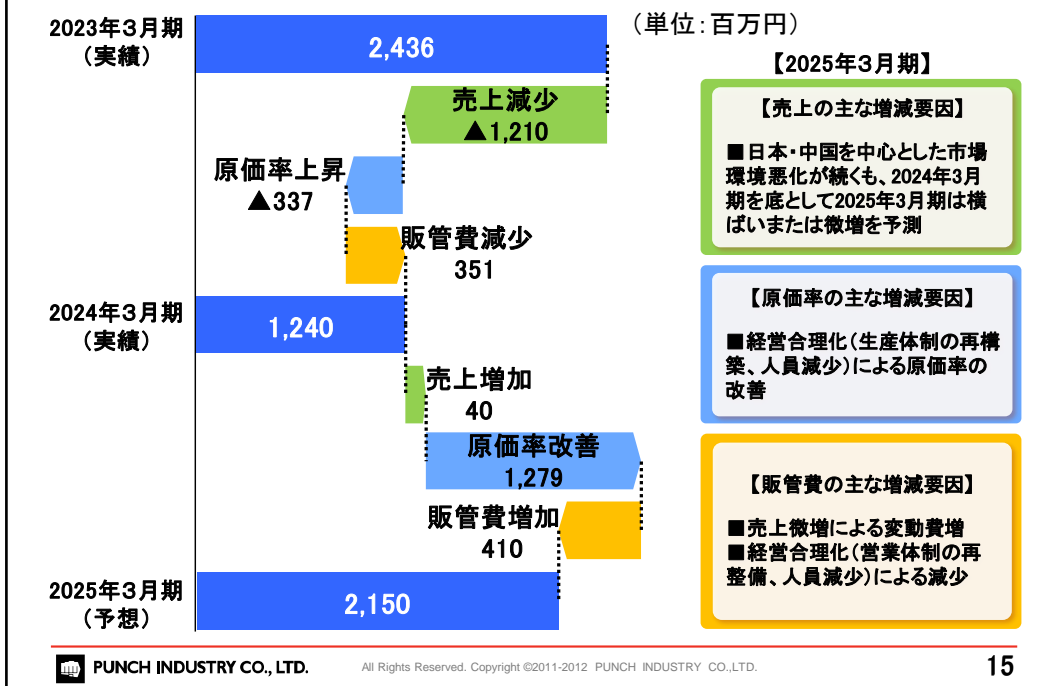
PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

14

- 直近の中期経営計画期間中の売上・営業利益・当期純利益をグラフ化
- 2025年3月期の世界経済は、コロナ禍からの回復による社会経済活動の正常化が進む一方で、地政学リスクの高まりや中国の市場低迷等による景気の下振れが長期化していると認識
- 世界的なエネルギーや原材料の高騰、為替相場の変動などもあり、厳しい経営状況が続いており、日本・中国の当社グループの事業の柱となる地域において、景況感が不透明なこともあり、中期経営計画「VC2024 Revival」の当初計画から親会社株主に帰属する当期純利益のみ目標を上方修正

営業利益増減



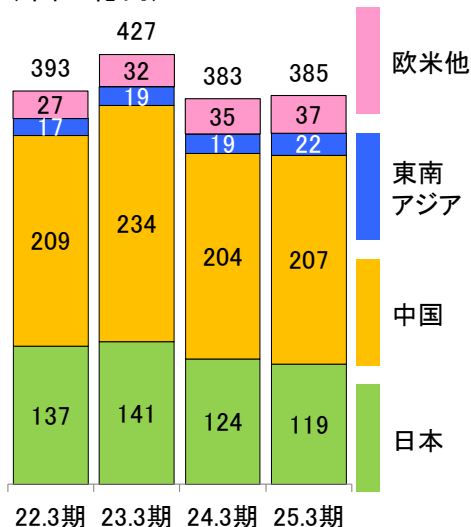
■ 「VC2024 Revival」期間中の営業利益増減分析

- 2024年3月期は日本・中国を中心とした市場環境悪化から減収による営業利益の押し下げ影響が大きい状況
- 2025年3月期には、2024年3月期を底として売上は横ばいまたは微増にとどまると見ているものの、原価部分では生産体制の再構築、人員減少による原価率の改善が見込まれ、販管費部分では営業体制の再構築や人員減により減額効果がある一方、売上微増による変動費増や営業活動の活性化により、販管費増加が見込まれる
- 2025年3月期の営業利益目標は前期比で9億円増の21億50百万円を見込む

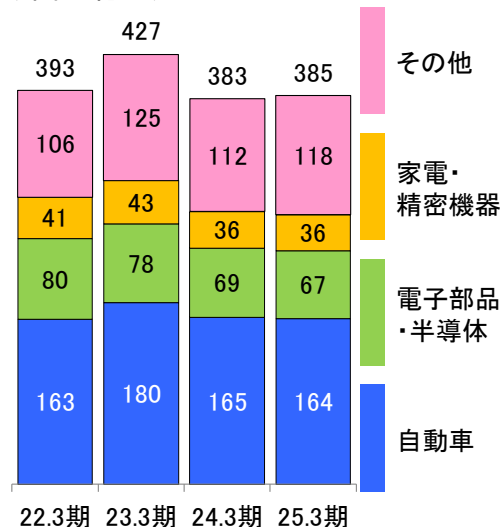
地域別・業種別売上の数値目標

受注環境は好転しつつあるが、前期からの増収幅は微増と予想

(単位: 億円)



(単位: 億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

16

■ 「VC2024 Revival」の地域別・業種別売上の内訳

- 当社グループの事業の柱である金型部品は受注生産であることから、景況感に左右されることがあり、前期2024年3月期は特に中国において大幅な減収
- 当期2025年3月期の足下では日本事業での受注環境に大きな変化はないものの、中国事業において自動車関連を中心に受注状況が好転しているが、引き続き、仕入品の価格上昇やエネルギーコストの高止まり等が継続していることから、業績回復の兆しは見えにくい状況であり、売上は前期から微増の予想

「資本コストや株価を意識した経営」への対応状況について

財務基盤の健全性を確保し、株主還元と成長投資へ分配して企業価値向上を目指す

株主資本	24.3期	25.3期 (予想)	
期首期末平均	15,820百万円	15,624百万円	● 株主資本配当率の計算方法の修正 ➢ 前期(24.3期)までは期首株主資本と 期末株主資本の平均値が分母
期末のみ	15,259百万円	15,989百万円	➢ 当期(25.3期)からは、株主資本の改善 効果を迅速に配当へ反映させるため、 期末株主資本のみを分母とする方法 に変更
配当総額	24.3期 DOE 3%	25.3期 DOE 3%	
期首期末平均	474百万円	468百万円	➢ 前期(24.3期)の年間配当は変更前の 計算方法によって算出 (変更後計算方法を適用時、▲69銭)
期末のみ	457百万円	479百万円	
1株当たり 配当金	24.3期 DOE 3%	25.3期 DOE 3%	
期首期末平均	19円40銭	19円16銭	➢ 当期(25.3期)の年間配当予想は、 変更後の計算方法によって算出 (変更前計算方法を適用時、▲45銭)
期末のみ	18円71銭	19円61銭	

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

17

■ 「資本コストや株価を意識した経営」への対応状況

■ 中期経営計画「VC2024」の策定とともに「ROIC経営」を導入し、資本コストを意識した経営に舵を切ったが、グループ全体に浸透するまでには時間が必要

■ 資本政策の基本方針及び株主還元方針として、財務基盤の健全性を確保しながら、経営効率を高め、営業活動から得られた資金を、株主還元とさらなる成長投資へ適切に分配していくことで、企業価値の向上を目指し、配当は安定的・継続的かつ連結業績への連動性を意識した利益配分とすることを基本に、「連結配当性向30%以上、かつDOE(株主資本配当率)3%以上」を指標として、財政状態や資金需要等を総合的に勘案した上で決定することを掲げている

■ DOEの計算方法として、前期2024年3月期までは株主資本の期首期末の平均値を分母としていたが、当期2025年3月期からは、株主資本の改善効果を迅速に配当へ反映させるため、期末株主資本のみを分母とする方法に変更

➢ 前述の年間配当予想は、変更後の計算方法

■ 今後の取組みとしましては、グループ内に「ROIC経営」の思想を浸透させ、資本効率を意識した経営を本格化させるとともに、引き続き、「稼ぐ力の強化」に取り組む

■ 積極的な株主還元に取り組むなかで、IR活動の活性化にも継続して注力し、時価総額やPER・PBRの向上を図る

参考資料

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

- 各資料につきましては、当社Webサイトよりご覧ください。

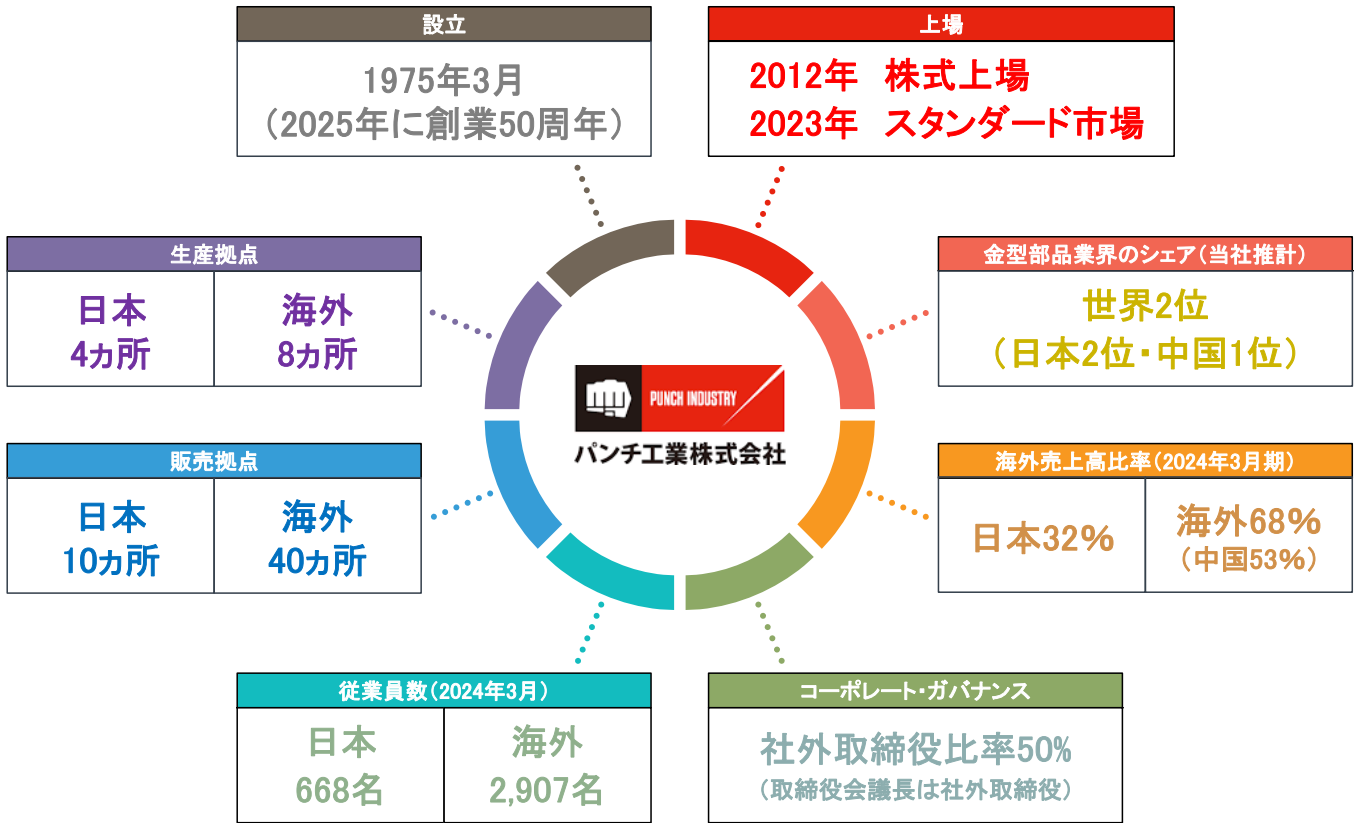
- 中期経営計画
 - http://www.punch.co.jp/ir/med_management.html

- 決算短信
 - <http://www.punch.co.jp/ir/library/tanshin.html>

- 決算説明資料
 - <http://www.punch.co.jp/ir/library/setsume.html>

- IRニュース一覧
 - <http://www.punch.co.jp/ir/2024/>

ひと目でわかるパンチグループ



マネジメント体制

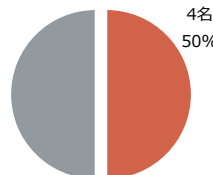
代表取締役社長プロフィール

氏名及び生年月日	職歴
 森久保 哲司 (1977年1月22日)	2003年5月 当社入社
	2005年2月 盤起工業(大連)有限公司
	2012年11月 バリュー・クリエーション推進室長
	2013年4月 経営企画室長
	2015年4月 PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.
	2016年5月 執行役員
	2018年6月 取締役 上席執行役員 経営戦略統括
	2019年4月 最高戦略責任者 グループ事業統括
	2019年6月 代表取締役(現任) 副社長執行役員
	2019年11月 社長執行役員 最高経営責任者 グループ経営統括(現任)

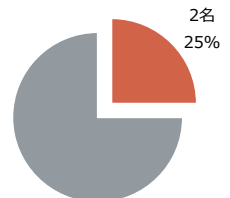
取締役体制

取締役	代表取締役社長執行役員 最高経営責任者(CEO)	森久保 哲司
	取締役上席執行役員 最高財務責任者(CFO)	村田 隆夫
	取締役上席執行役員 最高執行責任者(COO)	高梨 晃
	社外取締役 取締役会議長	高辻 成彦
	社外取締役	大里 真理子
取締役(監査等委員)	取締役(監査等委員)	河野 稔
	社外取締役(監査等委員)	鈴木 智雄
	社外取締役(監査等委員)	田畑 千絵

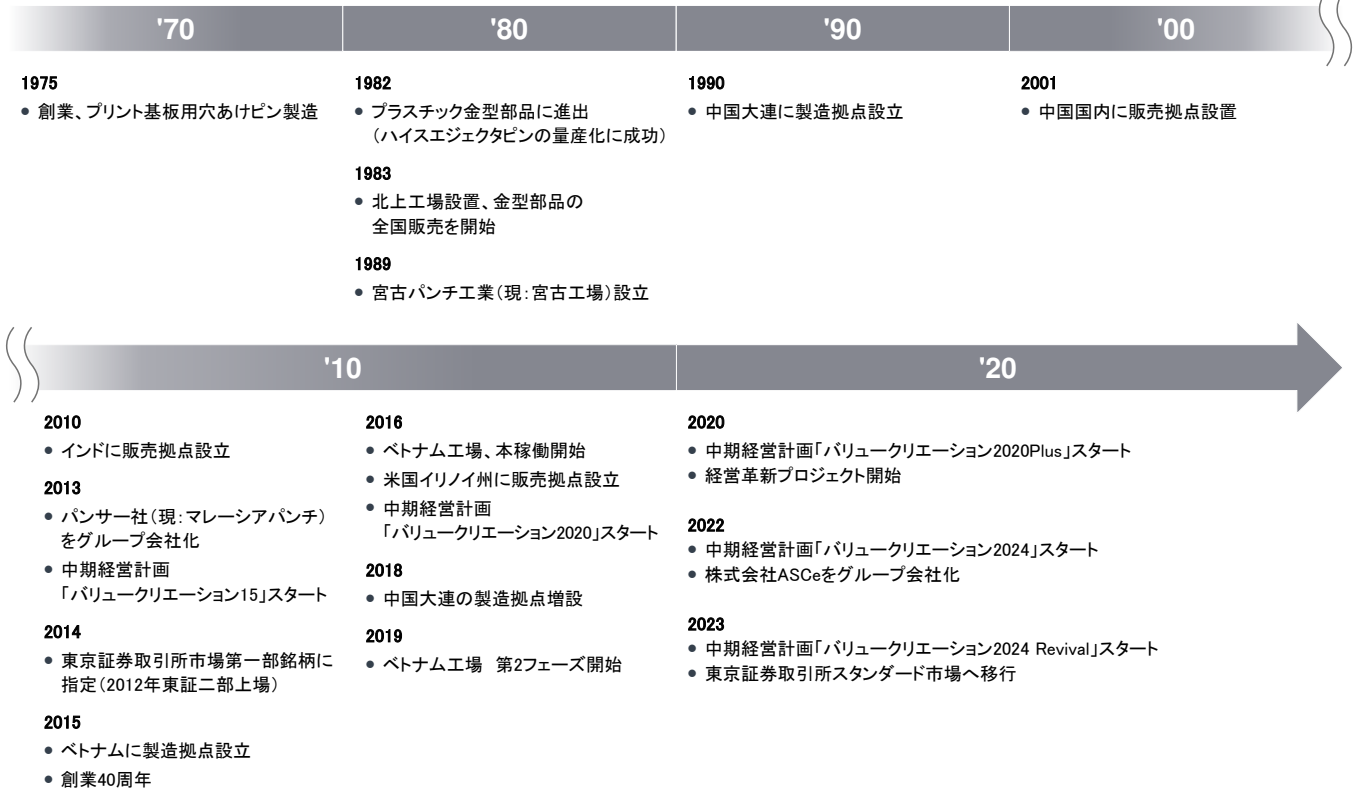
社外取締役比率



女性取締役比率

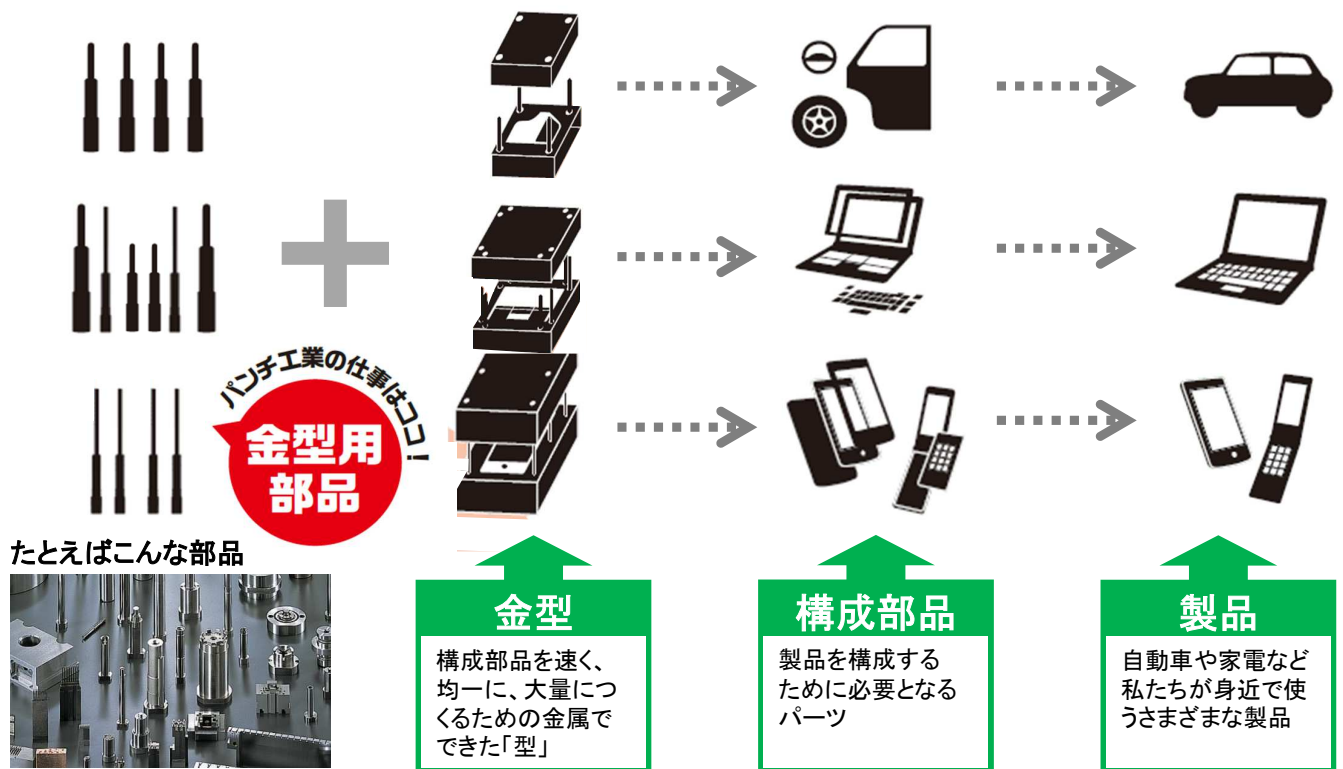


パンチグループ沿革



事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密金型部品の製造・販売
 皆様の豊かな生活を支える「縁の下の力持ち」



パンチグループの主要製品

射出成型金型等のプラスチック金型部品とプレス加工金型等のプレス金型部品
ものづくりの上流から下流までお取引

プラスチック金型部品

プラスチック金型は、スマートフォンやデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられています。加熱溶解したプラスチック樹脂を、射出成形機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られます。パンチグループでは、この金型を構成する部品を製造・販売しています。



主要な製品

エジェクタピン

射出成形された成形品を金型そのものから離し、突き出すための部品(押し出しピン)です。



主要な製品

コアピン

製品部を成形するのに使用し、コアピンの形が転写されます。製品部の貫通させた部分を成形したり、製品部に彫刻をします。

プレス金型部品

プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型間に材料となる金属の鋼板を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品ができ上がります。パンチグループでは、この金型を構成する部品を製造・販売しています。



主要な製品

パンチ

プレス金型に組込まれる代表的な部品で、金属板に穴をあけたり、形状を転写するための部品です。当社の社名はこのパンチに由来しています。



主要な製品

ホルダーガイドポスト関連

上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品です。



パンチグループの特徴

日本・中国
特注金型部品シェア1位 ※当社推計



カタログ品

汎用性の高い標準製品を豊富にラインナップ

スピーディなソリューション

特注品

カスタムニーズにも柔軟に対応



一気通貫の生産体制
2,000台以上の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制
きめ細かな対応・提案力

高い技術力

創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発



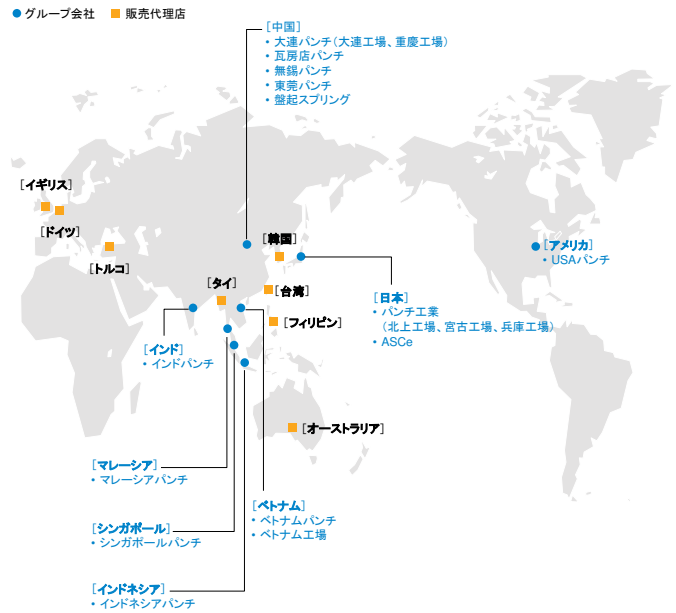
パンチグループの強みとネットワーク

汎用性の高いカタログ品を豊富にラインアップ & カスタムニーズにも対応する特注品
世界の「ものづくり」を支える

パンチグループの強み

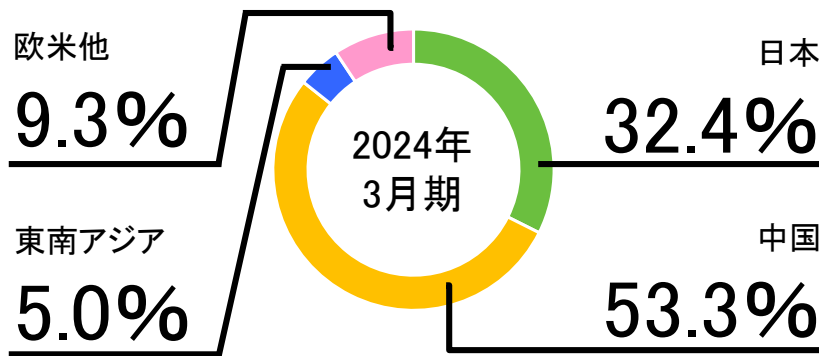


パンチグループのネットワーク

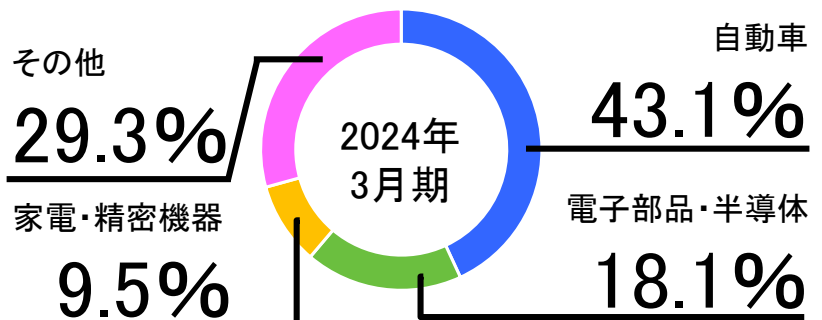


地域別・業種別売上高構成比

地域別売上高構成比

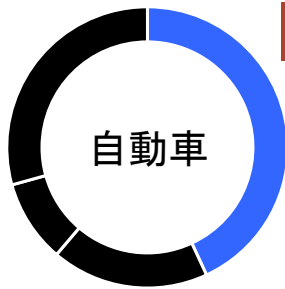


業種別売上高構成比



業種別の主要顧客

日本での主な競合先: 大手総合機械商社、地場金型加工メーカーなど
 中国での主な競合先: 中華系機械商社、中華系機械メーカーなど



主要顧客

自動車メーカー及び
Tier1,2
金型メーカー



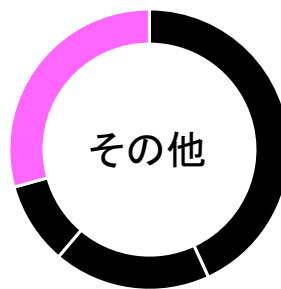
主要顧客

電子部品メーカー
半導体装置メーカー
金型メーカー



主要顧客

家電メーカー
金型メーカー



主要顧客

文具メーカー
玩具メーカー
医療メーカー
飲料容器メーカー
グローバル商社
金型メーカー



エンドユーザーのイメージ (例:自動車関連)

大多数のエンドユーザーは金型メーカー

自動車メーカー



ボディ・外装・シート・
コネクター・等々のメーカー



金型メーカー



パンチグループ



主な展示会出展・セミナー登壇情報(2023~2024年)

期間	開催地		展示会
11/15 ~ 11/16	日本	東京	ものづくりパートナーフォーラム東京
11/29	日本	東京	品川区主催SDGs フォーラム
12/6 ~ 12/9	インドネシア	ジャカルタ	Manufacturing Indonesia
1/20	日本	東京	IR・株式投資セミナー
1/26	日本	福岡	北九州未来創造セミナー
2/1	日本	オンライン	次世代金型技術 Webinar Week 2024
2/14 ~ 2/17	インド	ムンバイ	Die & Mould India International Exhibition



Manufacturing Indonesia 2023



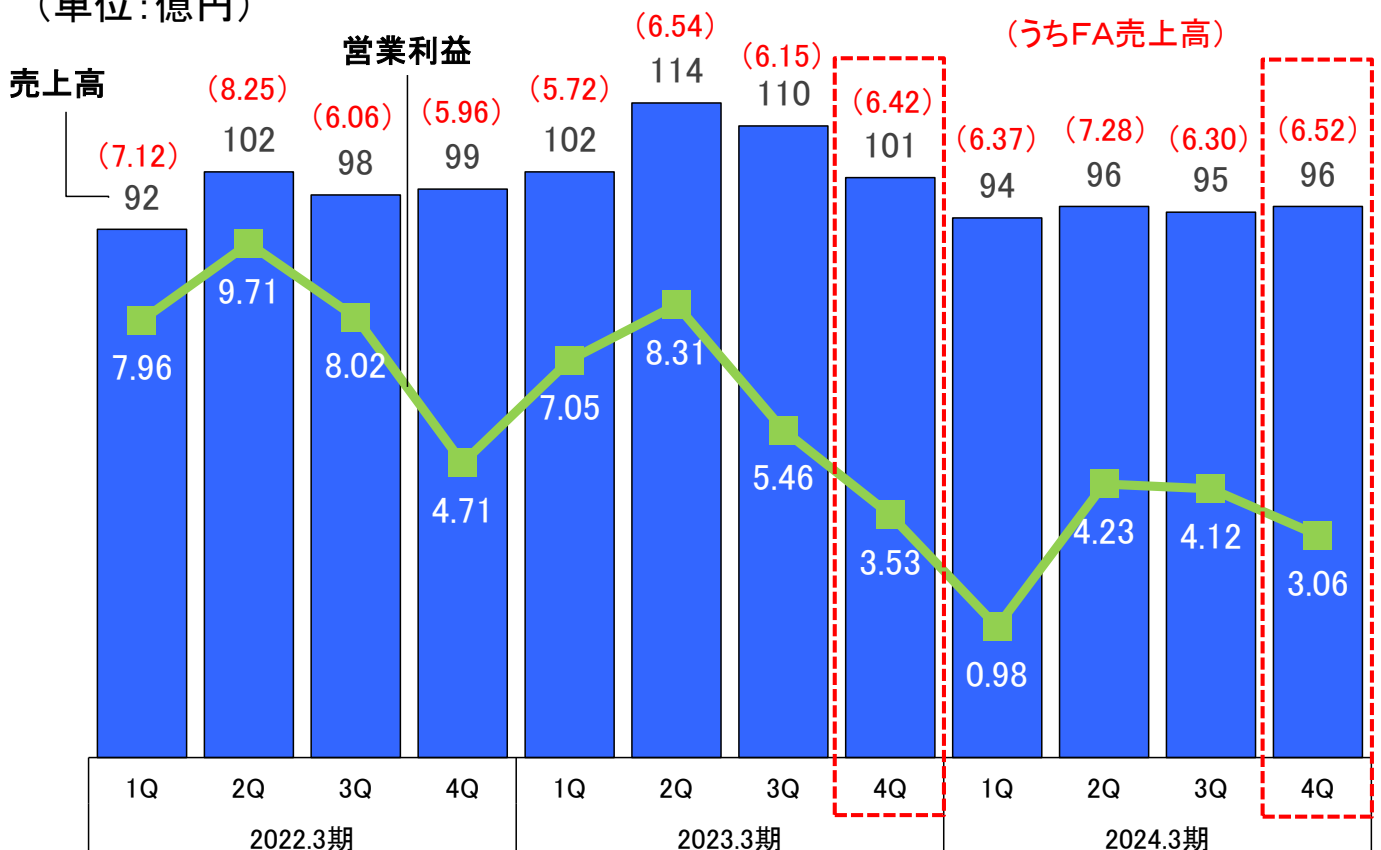
品川区主催SDGs フォーラム



Die & Mould India International Exhibition

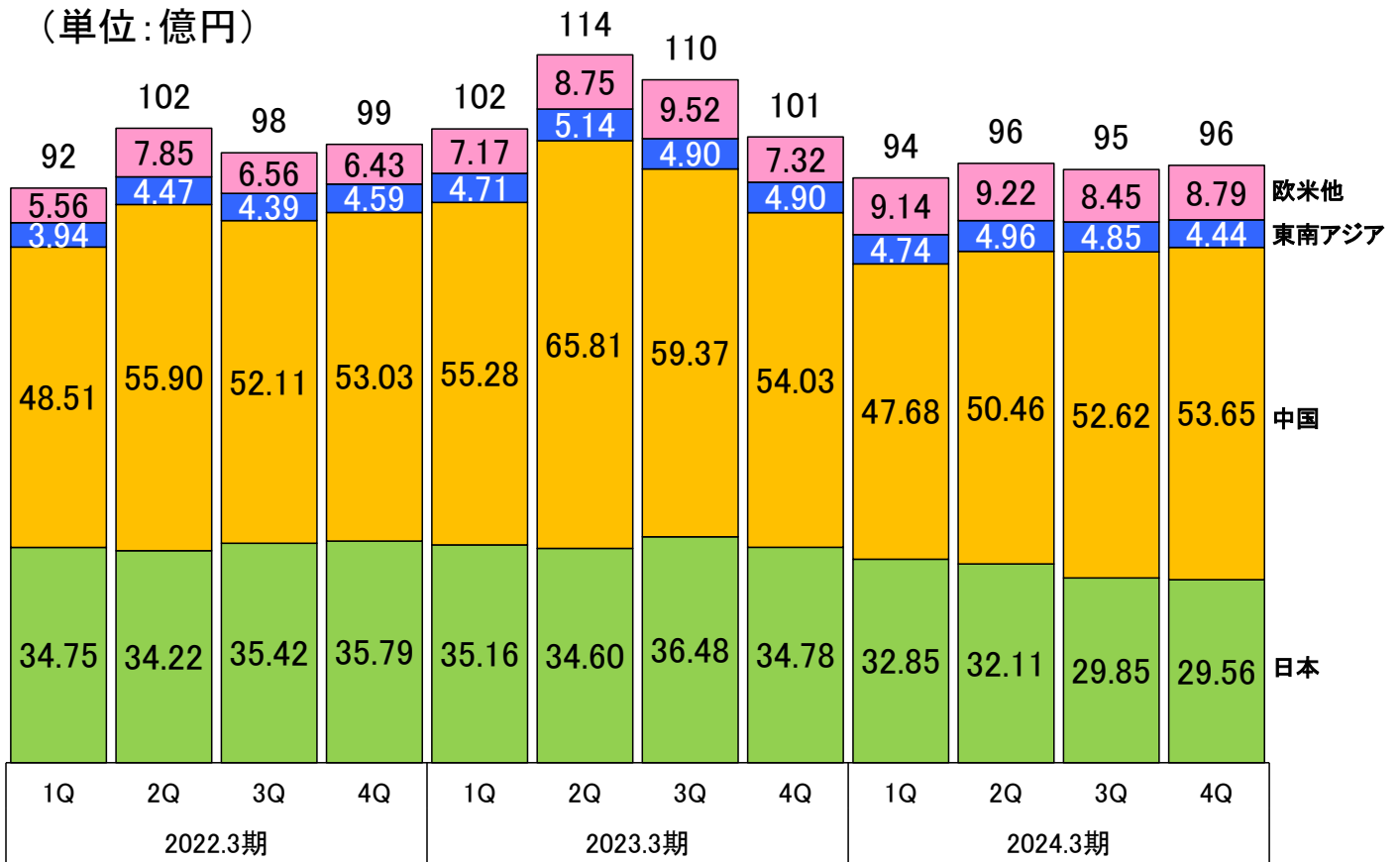
売上高と営業利益の推移

(単位:億円)



地域別売上高

(単位:億円)

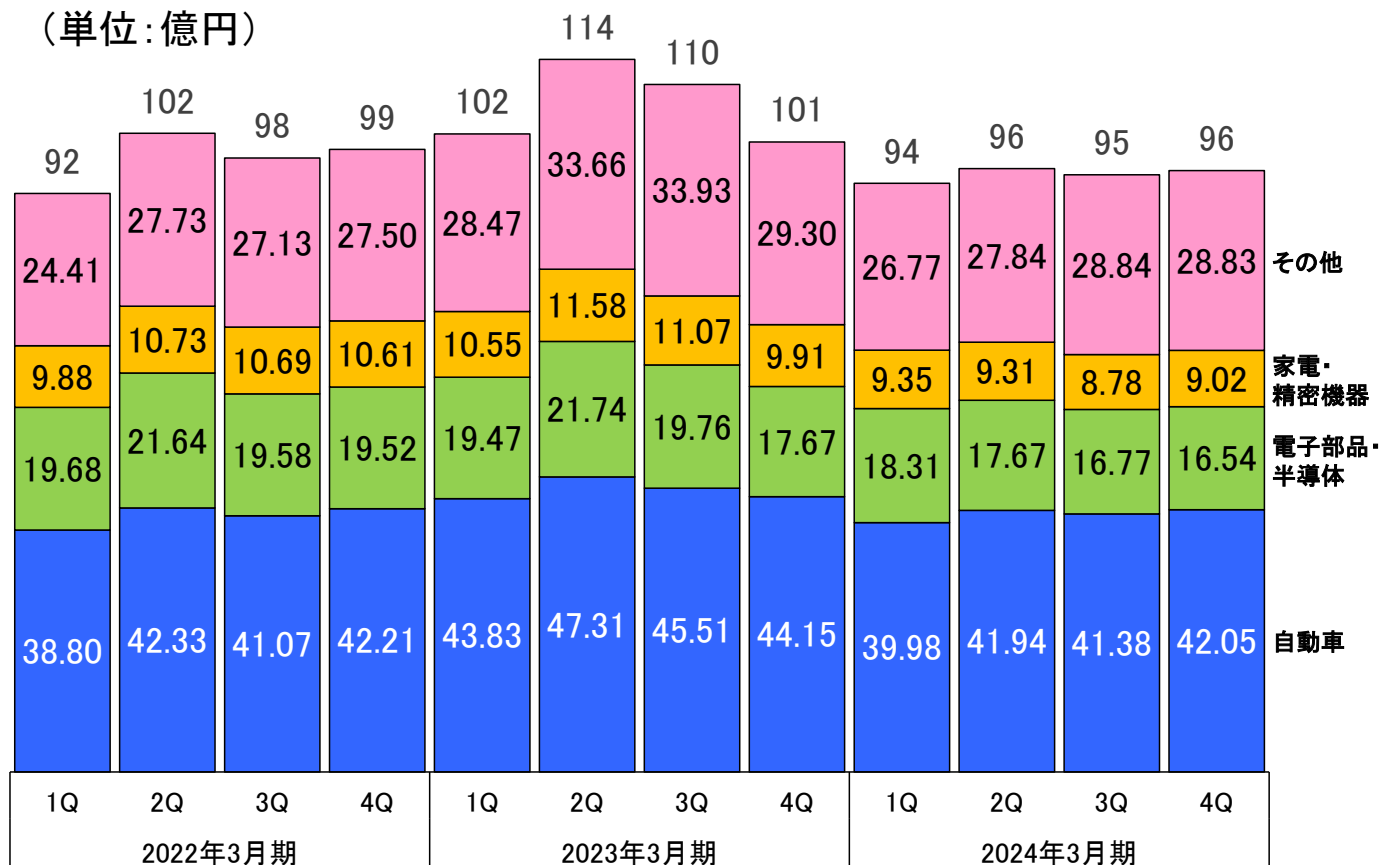


PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

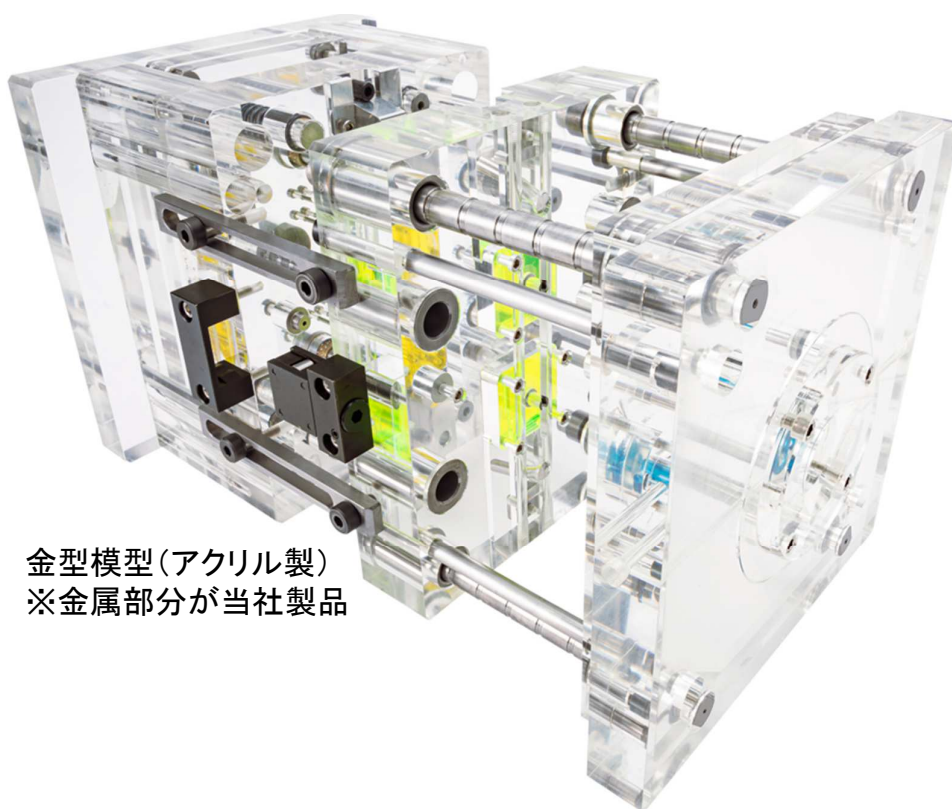
業種別売上高

(単位:億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.



金型模型(アクリル製)
※金属部分が当社製品

【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報IR課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。